

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会

## 平成 23 年度定時社員総会資料

平成 23 年 3 月 10 日（木）

### 平成 23 年度定時社員総会式次第

時間 12 : 40 ～ 13 : 40

場所 東洋大学 白山キャンパス 6号館 6210教室

1. 開会宣言（社員総会成立要件の確認）
2. 議長指名（現職会長）
3. 第 1 号議案 平成 22 年度事業報告について
4. 第 2 号議案 平成 22 年度決算報告について
5. 第 3 号議案 繰越収支差額処分について
6. 第 4 号議案 平成 23・24 年度役員選出について  
休憩 10 分（第 4 号議案の役員による臨時理事会を開催し代表理事を選出する）
7. 議長指名（新任会長）
8. 第 5 号議案 平成 23 年度事業計画について
9. 第 6 号議案 平成 23 年度予算について
10. 閉会宣言  
退任会長挨拶  
新任会長挨拶

※開会に先立ち、代議員（社員）と社員総会の役割及び社員総会の運営についてご説明申し上げます。

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会ビジョン：

プロジェクトマネジメントを学問・技術の体系として整備，確立，発展させ，国際社会に寄与する．そのために，広く様々な分野から参画する多数の会員により，常にオープン，中立的，協調的かつ学際的で活発な活動を展開する．これにより，学術的に優れた研究成果，技術および実践面での向上，プロジェクトマネジメントの一層の普及を実現するとともに，企業・産業・社会・経済・学問・文化の発展に貢献し，参画する会員に動機と達成感を与え成長し続ける学会を目指す．

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会役員（平成22年度）

理事・会長	横山真一郎	東京都市大学	論文審査・編集担当			
理事・副会長	大野 治	日立製作所	会長補佐			
理事・副会長	栗島 聡	NTT データ	会員サービス担当，国際担当			
理事・副会長	関 哲朗	文教大学	総務担当，学際担当			
理事・副会長	上嶋 裕和	富士通	国際担当（統括）			
理事・副会長	藤吉 幸博	日本電気	大会担当，教育・出版担当			
職 役	委員 長		理 事		幹 事	
	副委員 長					
職務	関 哲朗*	文教大学	角田 文広	日立ソフトウェアエンジニアリング*	小松 鉄朗	日立ソフトウェアエンジニアリング*
大会	建部 清美	日立製作所	岡田 清久	日本電気	松浦 洋	日本アイ・ビー・エム
論文審査・編集	小川 誠	芝浦工業大学	(論) 石井 信明	文教大学	朝岡 勝	NTT データ
			(編) 星 幸雄	日立製作所	石川 隆	東芝
			(NL) 加藤 和彦	千葉工業大学	-	-
研究	大野 治*	日立製作所	藤原 良一	三菱電機(ソフトウェアシステムズ)	初田 賢司	日立製作所
学際	(FMES)		(横幹)		(FMES)	(JABEE)
	堀内 俊幸	千葉工業大学	木野 泰伸	筑波大学	吉澤 正*	浅野 克彦
国際	島田 さつき	富士通	大内 準一	NTT データ	一柳 晶子	日本アイ・ビー・エム
会員サービス	栗島 聡*	NTT データ	濱 久人	パナソニック	磯 英樹	NTT データ
教育・出版	神田 雄一	東洋大学	浦川 伸一	日本アイ・ビー・エム	治田 倫男	アイ・エス情報システム
特別委員会（理事会規則による時限付委員会）						
国際会議実施支援	大野 治*	日立製作所	会長*，副会長*，国際委員会委員長*，同副委員長*，同幹事*，常任顧問* 国際会議実施支援特別委員会委員長または国際委員会委員長が指名する者			
PM 実施賞選考	河合 輝欣*	ユー・エス・イー	アドバイザー・ボード・メンバー*			
PM 実施賞審査	関 哲朗*	文教大学	審査発生毎に PM 実施賞審査特別委員会委員長が都度指名する者			
表彰	論文審査・編集委員会委員長指定職*		論文審査・編集委員会，表彰特別委員会委員長が都度指名する者			
標準化検討	浦川 伸一*	日本アイ・ビー・エム	標準化検討特別委員会委員長が指名する者			
監事	西山 寛志	インテック	竹内 秀一	東京経済大学		
本部運営管理室	室長 関 哲朗*	文教大学	次長 加藤 和彦*	千葉工業大学		
顧問	岡田 英樹	NTT データ九州： 九州支部長	岩尾 直樹	STNet： 四国支部長		
	三浦 房紀	山口大学： 中国支部長	山本 幸司	名古屋工業大学： 中部支部長		
特任幹事	荒川 雅生	香川大学	板倉 宏昭	香川大学	榎本 眞三	バタム国際大学
	新藤 久和	山梨大学	三木 俊克	山口大学	宮田 秀明	東京大学
	山田 茂	鳥取大学				
(注1) 氏名の*は，兼務者 (注2) 論文審査・編集委員会の(論)は論文審査担当，(編)は学会誌編集担当，(NL)はニュース編集担当						
常任顧問	富永 章	PM ラボラトリー	吉澤 正	帝京大学		
	河合 輝欣	ユー・エス・イー	松島 克守	俯瞰工学研究所		
アドバイザー・ボード（河合 輝欣 議長）						
ボード・メンバー	相澤 正俊	日本電気	天野 吉和	トヨタ自動車	河合 弘行	協和発酵キリン
	木村 昌平	セコム	黒川 博昭	富士通	重木 昭信	NTT データ
	下野 雅承	日本アイ・ビー・エム	田辺 孝二	東京工業大学	中島 純三	日立製作所
	服部 厚志	鹿島建設				

## 第 1 号議案 平成 22 年度事業報告について

### 「事業概況」(会長：横山真一郎)

平成22年度は一般社団法人として実質的に学会活動する1年目になりました。当該年度も運営方針に従い、プロジェクトマネジメントの発展を目指すとともに会員の満足向上に努め、学会誌や標準書の発行、フォーラムの開催、そして国際会議ProMAC2010の主催など、会員に共通する利益を図ることを目的とした事業を積極的に行いました。ここに一般社団法人プロジェクトマネジメント学会第2年度(平成22年度)の活動についてご報告いたします。

まず学会活動の基本となる会員数は3,000名を超えた後、順調に増加しております。また、支部の拡大とサービスの充実に努めました。そして四国支部、九州支部、中国支部、中部支部に引き続き平成23年4月には関西支部の設立が予定されています。国内の学術・実践の場のネットワークの確立は着実に進めることができました。

学会としての評価の一つは学会誌の充実にあります。残念ながら平成22年度に掲載された研究論文の数はそれほど多くはありませんでしたが、投稿頂いた論文や掲載された事例や記事などはどれも長年の研究や貴重な経験に基づくものであり、会員にとって有益なものでした。

昨年3月には春季研究発表大会を開催し、10月には、幕張において国際会議ProMAC2010を開催しました。やはり平成22年度の一大事業はこの日本開催のProMAC2010でした。国際委員会を中心に各委員会ならびに会員の皆様のご協力を得て、著名な方々の講演や多数の発表がある国際会議が開催できました。そして国内外から1,000名を超える参加者を得て成功裏に終了したことをご報告いたします。この国際会議の成功は、一般社団法人プロジェクトマネジメント学会としての認知度向上とPM普及に繋がるものと信じております。その他には新春特別セミナーや教育フォーラムなどの開催、トワイライトサロンや支部との交流などを積極的に進めて参りました。各研究会は毎月あるいは定期的で開催し、その活動内容や成果を毎回学会誌で報告してきました。

もう一つ大きな成果として、学会標準書「母体組織のプロジェクト推進機能」の発行があげられます。プロジェクトマネジメントを推進する組織に必要な要件を整理し、標準としてまとめました。英語版も作成し、積極的に世界へ向けて発信していきます。

学会各賞の表彰では、まずプロジェクトマネジメントの実施に成果を挙げている団体に対して表彰される「PM実施賞」は、日本電気株式会社の受賞が決まりました。他にも、「学会賞」や「論文賞」の該当者が選ばれ表彰されることが決まりました。

平成22年度は一般社団法人としての基盤固めの年度になりました。役員や運営の形態などが今までとは異なりましたが、皆様のご協力を得て混乱もなく学会運営が行えました。

第 2 号議案 平成 22 年度決算報告について

貸 借 対 照 表

平成 22 年 12 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I. 資産の部</b>			
1. 流動資産			
普通預金	61,373,242	0	61,373,242
未収会費	5,537,000	0	5,537,000
未収金	26,420,154	0	26,420,154
貯蔵品	543,794	0	543,794
前払費用	193,440	0	193,440
流動資産合計	94,067,630	0	94,067,630
2. 固定資産			
差入保証金	1,200,000	0	1,200,000
固定資産合計	1,200,000	0	1,200,000
<b>資産合計</b>	<b>95,267,630</b>	<b>0</b>	<b>95,267,630</b>
<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	2,099,168	0	2,099,168
預り金	2,222	0	2,222
流動負債合計	2,101,390	0	2,101,390
<b>負債合計</b>	<b>2,101,390</b>	<b>0</b>	<b>2,101,390</b>
<b>III. 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	93,166,240	0	93,166,240
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	93,166,240	0	93,166,240
<b>負債・正味財産</b>	<b>95,267,630</b>	<b>0</b>	<b>95,267,630</b>

**正味財産増減計算書**  
平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I. 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
(1) 経常収益			
① 受取会費			
学生会員会費収入	369,000	0	369,000
正会員会費収入	24,184,000	0	24,184,000
法人会員会費収入	8,800,000	0	8,800,000
受取会費計	33,353,000	0	33,353,000
② 事業収益			
研究発表大会収入	6,637,000	0	6,637,000
学会誌バックナンバー収入	13,500	0	13,500
論文別刷り収入	90,500	0	90,500
広告料収入	639,000	0	639,000
出版図書収入	74,000	0	74,000
四国支部収入	300,500	0	300,500
九州支部収入	0	0	0
中国支部収入	60,408	0	60,408
中部支部収入	141,000	0	141,000
国際会議収入	35,483,500	0	35,483,500
事業収益計	43,439,408	0	43,439,408
③ 受取寄付金			
受取寄付金	71,702,662	0	71,702,662
受取寄付金計	71,702,662	0	71,702,662
④ 雑収益			
受取利息	10,196	0	10,196
その他雑収益	100,701	0	100,701
雑収益計	110,897	0	110,897
経常収益計	148,605,967	0	148,605,967
(2) 経常費用			
① 事業費及び管理費			
雑給	560,000	0	560,000
会議費	1,083,685	0	1,083,685
旅費交通費	632,590	0	632,590
通信費	3,847,145	0	3,847,145
消耗品費	326,938	0	326,938
印刷製本費	7,938,174	0	7,938,174
賃借料	1,646,844	0	1,646,844

水道光熱費	115,217	0	115,217
地代家賃	1,200,000	0	1,200,000
基盤整備費	230,895	0	230,895
諸謝金	548,192	0	548,192
租税公課	114,050	0	114,050
業務委託費	2,854,030	0	2,854,030
支払手数料	1,680,127	0	1,680,127
諸会費	416,807	0	416,807
雑費	59,305	0	59,305
国際会議開催費	36,185,728	0	36,185,728
経常費用計	59,439,727	0	59,439,727
<b>当期経常増減額</b>	<b>89,166,240</b>	<b>0</b>	<b>89,166,240</b>
<b>2. 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益			
① その他雑収入			
損害賠償金	4,000,000	0	4,000,000
経常外収益計	4,000,000	0	4,000,000
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
<b>当期経常外増減額</b>	<b>4,000,000</b>	<b>0</b>	<b>4,000,000</b>
<b>当期一般正味財産増減額</b>	<b>93,166,240</b>	<b>0</b>	<b>93,166,240</b>
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	93,166,240	0	93,166,240
<b>II. 指定正味財産増減の部</b>			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
<b>III. 正味財産期末残高</b>	<b>93,166,240</b>	<b>0</b>	<b>93,166,240</b>

**財務諸表に対する注記**  
**平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで**

1. 重要な会計方針

(1)リース取引の処理方法

リース取引の処理方法は、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンスリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(2)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

2. 会計方針の変更

該当ありません。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

該当ありません。

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

該当ありません。

5. 担保に供している資産

該当ありません。

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりであります。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
差入保証金	1,200,000	—	1,200,000
合計	1,200,000	0	1,200,000

7. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

該当ありません。

8. 保証債務等の偶発債務

該当ありません。

9. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当ありません。

10. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

該当ありません。

11. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

該当ありません。

12. 関連当事者との取引の内容

該当ありません。

13. 重要な後発事象

該当ありません。

14. その他

該当ありません。

財 産 目 録  
平成 22 年 12 月 31 日現在

(単位:円)

科目	金額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
普通預金			
三菱東京 UFJ 銀行 新橋支店	61,373,242		
未収会費			
平成22年度年会費	5,537,000		
未収金			
平成22年度年会費	2,892,000		
平成22年度事業収益	328,000		
経費等他社負担分	466,457		
旧団体収納分収益	22,733,697		
貯蔵品			
出版図書	543,794		
前払費用			
平成23年度経費等	193,440		
流動資産合計		94,067,630	
2. 固定資産			
(基本財産)			
基本財産合計	0		
(特定資産)			
特定資産合計	0		
(その他固定資産)			
差入保証金	1,200,000		
その他固定資産合計	1,200,000		
固定資産合計		1,200,000	
資産合計			95,267,630
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
(株)正文社に対する未払額	1,426,742		
事務局員立替に対する未払額	559,948		
他平成23年度活動経費	112,478		
預り金			
源泉所得税	2,222		
流動負債合計		2,101,390	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			2,101,390
正味財産			93,166,240



**キャッシュ・フロー計算書**  
平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで

科 目	当年度	前年度	増減
I. 事業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 当期一般正味財産増減額	93,166,240	0	93,166,240
2. キャッシュ・フローへの調整額			
①未収会費	-5,537,000	0	-5,537,000
②未収金の増減額	-26,420,154	0	-26,420,154
③貯蔵品の増減額	-543,794	0	-543,794
④その他資産の増減額	-1,393,440	0	-1,393,440
⑤未払金の増減額	2,099,168	0	2,099,168
⑥その他の負債の増減額	2,222	0	2,222
小計	-31,792,998	0	-31,792,998
事業活動によるキャッシュ・フロー	61,373,242	0	61,373,242
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー			
投資活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー			
財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0
IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0	0
V. 現金及び現金同等物の増減額	61,373,242	0	61,373,242
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	0	0	0
VII. 現金及び現金同等物の期末残高	61,373,242	0	61,373,242

(注)1. 資金の範囲 資金の範囲には、現金及び現金同等物を含めている。

当期末における正味財産の内訳は、次のとおりです。

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
法人化準備金	0	25,000,000	0	25,000,000
国際会議準備金	0	40,000,000	0	40,000,000
学会運営基金	0	10,000,000	0	10,000,000
準備金計	0	75,000,000	0	75,000,000
差入保証金	0	1,200,000	0	1,200,000
次期繰越収支差額	0	16,966,240	0	16,966,240
正味財産合計	0	93,166,240	0	93,166,240


平成 23 年 3 月 10 日  
平成 23 年度社員総会資料


## 監査報告

私たちは、一般社団法人プロジェクトマネジメント学会の平成 22 年度業務執行ならびに収支計算および財産の状況について監査しました。

監査の結果、業務は適切に執行され、かつ、収支計算書および貸借対照表は当学会の収支および財産の状況を適正に表示しているものと認めます。

平成 23 年 3 月 3 日

監事 西山 寛志 

監事 竹内 秀一 

第 3 号議案 繰越収支差額処分について

以下のように平成 22 年度の繰越収支差額処分を提案します。

次年度への繰越 16,966,240 円

合計 16,966,240 円

第 4 号議案 平成 23・24 年度役員選出について

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会定款第 15 条、第 24 条 1 項および第 25 条 1 項に基づき、以下の正会員を一般社団法人プロジェクトマネジメント学会の役員とすることを提案します。任期は一般社団法人プロジェクトマネジメント学会定款第 28 条 1 項および 2 項に従います。

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会 役員候補 (50 音順)

理事候補

	氏 名	所 属
1	石井 信明	文教大学
2	浦川 伸一	日本アイ・ビー・エム
3	大野 治	日立製作所
4	岡田 清久	日本電気
5	加藤 和彦	千葉工業大学
6	神田 雄一	東洋大学
7	木野 泰伸	筑波大学
8	栗島 聡	NTT データ
9	島田 さつき	富士通
10	鈴木 英彦	富士通
11	関 哲朗	文教大学
12	建部 清美	日立製作所
13	中田 圭	NTT データ
14	初田 賢司	日立製作所
15	端山 毅	NTT データ
16	藤原 良一	三菱電機インフォメーションシステムズ
17	藤吉 幸博	日本電気
18	堀内 俊幸	千葉工業大学
19	前北 哲男	日本アイ・ビー・エム
20	山本 正毅	日立 GE ニュークリア・エナジー
21	横山 真一郎	東京都市大学
22	吉田 憲正	NTT データカスタマーサービス

監事候補

	氏 名	所 属
1	竹内 秀一	東京経済大学
2	西山 寛志	インテック

## 第 5 号議案 平成 23 年度事業計画について

### 「運営方針」

#### 1. 運営方針

プロジェクトマネジメントを取り巻く環境は大きく変わりつつあります。様々な社会環境の変化，個人の価値観の多様化，ネットワーク社会による急速なグローバル化等，大きな潮流のなかでプロジェクトマネジメントに対する期待とともに，新たな役割が必要とされています。このような状況の中，当学会としても，プロジェクトマネジメントの意義，普及に向けた発信だけでなく，プロジェクトマネジメントを通じた社会への貢献をこれまで以上に積極的に行っていくべきと考えます。このため，今期の運営方針としては，様々な社会変化に対応したプロジェクトマネジメントのさらなる向上と社会貢献の実践を標榜し努力して参りたいと思います。そのためには学会の研究活動の積極的な発信，国際的な標準化活動への積極的な参画を行うとともに，これまで同様に会員の満足向上にむけ，定期的な学会誌の発行やフォーラム，国際会議の主催など，会員に共通する利益を図ることを目的とした事業を積極的に行っていきます。具体的な運営方針の柱として次のことを進めて参ります。

- I. 「プロジェクトマネジメントを通じた社会貢献の実践」
- II. 「プロジェクトマネジメント向上，普及に向けた幅広い場の提供」
- III. 「学会の運営基盤の充実」

#### I. プロジェクトマネジメントを通じた社会貢献の実践

##### (1) 国際的な標準化活動への積極的な参画

国際標準化の動きが早まる中，学会としても積極的に活動して行きたいと考えています。このため，従来の標準化検討委員会の活動のほか，あらたに調査・企画委員会を設け，国内での活動も含めて対応してまいります。

また，国際会議についても，アジアにおいて ProMAC Symposium 開催を企画運営します。

##### (2) 国内における活動

経営工学関連学会協議会 (FMES)，横断型基幹科学技術連合，日本技術者教育認定機構 (JABEE) などへ積極的に参画し，一般社団法人となったプロジェクトマネジメント学会の認知度の向上に努めるとともに，情報の会員向けフィードバックに努めます。

##### (3) PMの向上，普及に向けた情報発信

開かれた研究活動を継続，強化するとともに研究会活動の強化，研究成果の発信を学会内外に向け行っていきます。併せて研究成果やPMノウハウの書籍の発刊を積極的に行ってまいります。PM標準カリキュラムについてもの体系化を進めさらなる充実を図ります。

以上の活動は，主に，研究委員会，学際委員会，国際委員会，標準化検討委員会，新たに設立する調査・企画委員会で行い，862 万円の予算を計上します。

## II. プロジェクトマネジメント向上、普及に向けた幅広い場の提供

### (1) 会員数の増強

健全な学会活動には十分な会員数が不可欠です。会員数増加のためには会員の皆様へのより良いサービスと円滑なコミュニケーションは欠かせません。また、より多くの分野との交流は、会員数の増加に直接的な効果を得るのみではなく、全ての会員の皆様の知識獲得に役立つものと思います。情報分野に限らず、土木・建設、機械等製品、食品、医薬等の分野への会員拡大に向けて、理事はもとより、各委員会の総力をあげて取り組んで参ります。

### (2) 支部の拡大とサービスの充実

支部の活性化は学会発展には必要なことです。今年度は関西支部を設立し、活動範囲の拡大を行います。さらに他の地域の支部の新設を検討し、国内全地域に活動の場を提供することを目指します。そして本部と支部との連携の強化に努めます。

### (3) 学会誌と学会論文の充実

学会の評価軸の1つは学会誌の充実にあります。論文投稿や審査の仕組みを検討し、掲載記事及び研究論文の量とともに質の向上に寄与して参ります。

### (4) 研究発表会などの開催と充実

研究発表大会の開催（今年度は春季のみ）プロジェクトマネジメントの普及に貢献します。また、各種フォーラムやトワイライトサロンの開催を積極的に進めます。また、研究会は毎月あるいは定期的で開催し、その活動内容や成果を毎回学会誌等で報告します。

以上の活動は主に、大会委員会、会員サービス委員会、論文審査・編集委員会で実施し、そのために2,028万円の予算を計上します。

## III. 学会の運営基盤の充実

### (1) 一般社団法人プロジェクトマネジメント学会の基盤強化

会員の利益を図ることを目的とした事業を積極的に企画し実行するとともに、既存会員の学会活動への参画を安定して維持できる運営体制の構築に努めます。また、学会ホームページのシステムについても充実させ、会員向け情報発信も積極的に行います。

### (2) 各委員会の連携とサービスの充実

10の委員会、支部の活動を活性化、拡大し、会員相互交流の場の創出と学問・技術の研鑽を支援し、学会の高度化を理事会一丸となって進めます。また学会副会長が各委員会の顧問として参画して、連携を強化し、会員のサービス向上を目指した新しい事業を検討いたします。

各委員会の調整や学会の基盤整備は、総務委員会および本部運営管理室が中心となって行います。その運営のために2,905万円の予算を計上します。

第 6 号議案 平成 23 年度予算について

収入と支出の概要

収入の部

会費収入		
（正会員会費収入）2800 名	22,400,000	2800 人*@8000
（学生会員会費収入）60 名	180,000	60 人*@3000
（法人会員会費収入）160 社	8,000,000	160 口*@50000
大会収入	0	
（春季研究発表大会）	6,010,000	
（秋季研究発表大会）	4,000,000	
国際会議収入	1,500,000	
学会誌バックナンバー売上	30,000	
論文別刷り	60,000	
広告料	720,000	
出版図書	100,000	
四国支部収入	304,100	
九州支部収入	0	
中国支部収入	60,000	
中部支部収入	230,000	
受取利息	10,000	
雑収入	0	
前期繰越収支差額	16,966,240	
収入合計	60,570,340	

支出の部

通信費	5,137,000	
印刷製本費	11,811,000	
消耗品費	606,000	
給与手当	0	
雑給(アルバイト)	1,075,000	
諸謝金	1,033,328	
旅費交通費	1,768,000	
会議費	3,020,000	
業務委託費	5,000,000	
支払手数料	2,300,000	
諸会費	440,000	
賃借料	2,868,000	
地代家賃	1,200,000	
租税公課	150,000	
水道光熱費	120,000	
雑費	480,000	
支部交付金	0	既設 4 支部への平成 23 年度交付金合計は、1,477,694 円ですが、資金の内部移動のため、ここでは 0 になっています。
基盤整備費	10,439,260	
国際会議開催費	2,500,000	
TC258 活動費	3,000,000	
予備費	7,622,752	
支出合計	60,570,340	
収支差額	0	

上記の他に、準備金合計 75,000,000 円及び敷金・差入保証金 1,200,000 円があります。

参考 「12 年の歩み」

	主な施策
平成 11 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 月学会設立</li> <li>・ 学会誌, @PM. Letters 発行開始</li> <li>・ 研究発表大会開始</li> <li>・ PM 用語対訳集編纂</li> </ul>
平成 12 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学会ビジョン策定</li> <li>・ FMES 加入</li> <li>・ 大会併設のチュートリアル開始</li> </ul>
平成 13 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学会誌隔月刊化および特集化</li> <li>・ 学会ロゴマーク策定</li> <li>・ 日本学術会議学術研究団体登録に向けた準備着手</li> <li>・ 四国支部設立準備にむけた「四国支部設立準備特別委員会」設置</li> <li>・ 国際会議 ProMAC2002 共催に向けた準備着手</li> </ul>
平成 14 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本学術会議学術研究団体登録</li> <li>・ 四国支部設立</li> <li>・ JABEE 加入</li> <li>・ 研究委員会フォーラム開始</li> <li>・ 設立 3 周年記念シンポジウム開催</li> <li>・ 国際会議 ProMAC2002 共催 (シンガポール)</li> </ul>
平成 15 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 九州支部設立</li> <li>・ 研究論文に「研究ノート」を新設</li> <li>・ トワイライトサロン開始</li> <li>・ PM 普及図書出版開始</li> <li>・ 法人会員特別セミナー開始</li> <li>・ 委員会再編</li> </ul>
平成 16 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PM 標準カリキュラム整備に向けた教育フォーラム開催</li> <li>・ 表彰制度策定</li> <li>・ 学会設立以来の学会誌・@PM. Letters の電子化 (DVD-ROM 化)</li> <li>・ 学会ホームページのリニューアル</li> <li>・ 国際会議 ProMAC2004 開催 (幕張メッセ)</li> <li>・ 中国支部設立準備</li> </ul>
平成 17 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国支部設立</li> <li>・ 学会表彰 (学会賞, 論文賞, 論文奨励賞) 開始</li> <li>・ 学会パンフレット作成</li> </ul>
平成 18 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西船橋に新事務所開設</li> <li>・ 国際会議 ProMAC2006 主催 (シドニー)</li> <li>・ 九州支部シンポジウム開催</li> <li>・ 教育フォーラム 2006 開催開始</li> </ul>
平成 19 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アドバイザリー・ボード開催開始</li> <li>・ 東京新橋に事務所移転</li> <li>・ 代議員制への移行準備</li> <li>・ 中部支部設立準備</li> </ul>
平成 20 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ProMAC2008 主催 (アンカレッジ)</li> <li>・ 代議員制へ移行</li> <li>・ 中部支部設立</li> <li>・ 一般社団法人の申請準備</li> <li>・ 会員 3000 名を越す</li> </ul>
平成 21 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般社団法人化</li> <li>・ 設立 10 周年記念行事開催</li> <li>・ ProMAC Symposium 2009 主催 (バンコク)</li> <li>・ 学会表彰 (PM 実施賞) 創設</li> </ul>
平成 22 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ProMAC2010 主催 (幕張メッセ, TDR)</li> <li>・ 関西支部設立準備委員会設置</li> <li>・ 標準書「母体組織のプロジェクト推進機能」を発行</li> </ul>